

2018年度 帰国報告書

イルクーツク市

イルクーツク国立大学

(2018年9月～2019年6月)

中川 愛理

1. 年間業務日程

月	日	授業関係	大学関係	領事館関係
9	5	授業開始	イルクーツク国立大 着任	
	23			日露友好シベリア 横断列車プログラム
10	5		極東・東シベリア弁論大会	
	6		教師セミナー	
	27		オープンキャンパス	
11	2		日本文化祭(アンガルスク市)	
12	1			日本語能力試験
	31	冬休み開始		
1	1-9		正月休み	
	26		オープンキャンパス	
2	11	2、3年生授業開始		
	16		イルクーツク州 日本・日本語大会	
	28		東洋文化コンサート	
3	4	4年生授業開始		
	6			安全対策連絡協議会
	23		学内弁論大会	
	25-26		3、4年生論文中間発表会	
4	13		マスタークラス「書道」	
	18		東シベリア地域弁論大会 教師セミナー	
	19		カラオケコンテスト	
6	23	一時帰国		

2. 赴任校の概要

2-1. 赴任先機関

・大学、学部、学科名：イルクーツク国立大学、文献学・外国語およびメディアコミュニケーション学院(大学)、外国語学部、東洋・アジア太平洋地域研究学科日本語コース

(露) Иркутский государственный университет (略称：ИГУ)

Институт филологии, иностранных языков и медиакоммуникации (略称：ИФИЯМ), факультет иностранных языков, Кафедра востоковедения и регионоведения АТР

(英) Irkutsk State University (略称：ISU)

Institute of Philology, Foreign Languages and Media Communication,

Department of Oriental and Asia-Pacific Regional Studies

- **学長**：ブィチコフ イゴリ ビャチスラボビッチ(ИГУ)
(露) Бычков Игорь Вячеславович (英) Igor Vyacheslavovich Bychkov
タシニコヴァ マリナ ボリソブナ(ИФИЯМ)
(露) Ташлыкова Марина Борисовна (英) Marina Borisovna Tashlykova
- **所在地**：(ИФИЯМ)：664025, Россия, г. Иркутск, ул. Ленина 8
664025, Russia, Irkutsk City, Lenin street 8
(国際部)：664003, Россия, г. Иркутск, ул. Карла Маркса 1, Office 304, 305
664003, Russia, Irkutsk City, Karl Marx St.1 Office 304, 305
- **連絡先**：(日本語コース教員室)
TEL&FAX +7-3952-200-386、メールアドレス japanesekafedra@mail.ru
- **国際部担当者**：クズネツォヴァ・タチヤナ・ニコラエヴナ
(露) Кузнецова Татьяна Николаевна
(英) Kuznetsova Tatiana Nikolayevna

2-2. 日本語教育関連

- **日本語教育設置年**：1989年
- **日本語コース責任者**：シャリーナ・イリーナ (日本語教師)
(露) Шалина Ирина Викторовна
(英) Shalina Irina Victorovna
- **日本語教師数**：5名 (ロシア人教師3名、フィリピン人教師1名、日本人教師(報告者)1名。)
- **日本語履修学生の卒業後の進路**：日本企業での就職、語学学校教師、フリーランス (講師、通訳) イルクーツク国立大学大学院への進学など
- **日本語コースカリキュラム**：
日本語科に所属する学生は日本語と英語とロシア語の翻訳・通訳を主専攻とし、特に日本語を第一外国語として4年間学ぶ。以前はロシア語と日本語・英語の通訳・翻

訳のスペシャリストを育成することを目標としていたが、修学年数の縮小やカリキュラムの変更に伴い、上記に準ずる能力を身に着けること、卒業年までに N2 レベルの日本語力を身に着けることを目標とすることとなった。

※歴史学部地域学科や国際コミュニケーション学院でも日本語や日本文化を学べる（非専攻、選択科目）他、夜間に多言語専攻の学生（韓国語・ドイツ語など）や他大学の学生、社会人の希望者を対象に日本語講座が開講されている。

・日本語専攻学生数（2019年6月時点）

学年	人数			レベル
	1グループ	2グループ	計	
1年生	12名	7名	19名	初級 N5
2年生	13名		13名	初中級 N4
3年生	9名		9名	中級 N3
4年生	9名		9名	中上～上級 N2～N1
合計	50名			

3. 赴任者の日本語教育業務

3-1. 学年、年間のシラバス

4年生：総合日本語（前期・後期）

前期：9月～12月、後期：3月～4月（週2コマ×90分×2クラス）

教材	『日本語を楽しく読む本中級』『日本語能力試験 JLPT 公式問題集 N2』 『中級から上級への日本語』『中級から上級への日本語ワークブック』 ほか国家試験過去問、自作資料（パワーポイント、プリント）
目標	N2～N1 レベルの総合的な日本語力を身につける。日本で取り上げられる様々なテーマについて、自分の意見を述べることができる。
評価	前期：ザチョット評価、後期：試験とザチョット
活動・所見	①日本語能力試験対策 ②日本に関する様々なテーマについて読み、意見を交換する。 グループ内で日本語のレベル差がかなり大きく、授業の進め方に戸惑った。一年間、色々と試行錯誤をしながら授業を進めた学年であった。

4年生：日本文学史後期（前期）

前期：9月～12月（週2コマ×90分×2クラス）

教材	『枕草子と徒然草を7日で制覇する』『原色シグマ新国語便覧』ほか日本文学作品各種、自作資料（パワーポイント、プリント）
目標	日本文学を通して、日本や日本人の考え方について考える。古典日本文学に触れ、日本語で感想を述べることができる。
評価	ザチョット評価
活動・所見	主に古典日本文学を扱った。毎週2人ずつ学生が教師となって、担当作品について発表した。 授業では、古典文学を扱ったものの、学生からは古典文学以外の作品を読みたいとの声が多かった。どうしたら学生たちが古典文学作品に興味を持ち、接して行ってくれるかは、今後の報告者自身の課題である。

3年生：総合日本語（前期・後期）

前期：9月～12月（週2コマ×90分×2クラス）

後期：2月～6月（週1コマ×90分×1クラス）

教材	『みんなの日本語 初級I・II本冊』『みんなの日本語 初級I・II聴解タスク』『みんなの日本語 初級I・II標準問題集』『ニューアプローチ 中級日本語（基礎編）』ほか自作資料（パワーポイント、プリント）
目標	初級レベルの文法をしっかりと押さえ、N2取得に向け、中級への橋渡しをする。日本語での会話を正確に聞き取る。
評価	前期・後期：筆記試験
活動・所見	①文法導入、練習 ②日本語での聞き取り練習 まじめな学生が多く、非常に積極的に授業に参加してくれた。出席率も良かった。授業内で質問がある時は、活発に質問をし、時にはクラスで学生同士が教え合い、報告者も授業を進めていて微笑ましかった。

3年生：日本文学史（後期）

後期：2月～6月（週2コマ×90分×2クラス）

教材	『日本文化を読む 初中級』ほか日本文学作品各種、自作資料（パワーポイント、プリント）
目標	日本文学に触れ、日本文化の造詣に深くなる。様々な形式の日本文学

	に触れてみる。
評価	ザチョット評価
活動・所見	日本昔話や近代文学史など、様々な話を扱った。ただ話を読むだけではなく、作品のアニメ版を見たり、その話が一番伝えたいメッセージは何かを考えたりするなど、文学への興味が薄い学生の記憶にも残るような活動を意識した。 学生たちからも、「日本昔話はおもしろいです」「もっと色々な文学作品が読んでみたい」と前向きなコメントが得られた。

2年生総合日本語（前期・後期）

前期：9月～12月、後期：2月～6月（週1コマ×90分×1クラス）

教材	『みんなの日本語初級Ⅰ・Ⅱ本冊』『みんなの日本語 初級Ⅱ聴解タスク』ほか自作資料（パワーポイント、プリント）
目標	文法の授業で学んだ文型を使って、長めの会話を成立させることができる。自分のことや考えを伝えることができる。
評価	前期・後期：ザチョット評価
活動・所見	文法の授業と連動させ、会話を聞いて、質問に答えたり、会話のロールプレイをしてもらうような活動をした。また聴解の授業も行った。非常に元気で、積極的なクラスだった。また、出席率も大変良かった。彼らの日本語に対するモチベーションが、学年が上がっても維持、また、ますます向上するよう努めていきたい。

歴史4年：ビジネス日本語（前期）

前期：9月～12月（週1コマ×90分×1クラス）

教材	『マンガで学ぶ日本語会話術』
目標	場面に応じて適切に日本語を使い分けることができるようになる。日本人と楽しく会話できるようになる。
評価	ザチョット評価
活動	「ビジネス」と名はつくが、学生たちのレベルがN5～4程度であり、会話力もまた経験もほとんどなかったため、ビジネス場面にこだわらなかった。 授業に登録している学生4名のうち2名は毎回の授業にしっかり参加していた。授業に来ていた学生は4か月という短い期間ではあったが、知っている語彙や文法も増え、応用できるようになったのではな

いかと思う。

3-2.個人指導・課外指導

① 各弁論大会指導

極東・東シベリア弁論大会、イルクーツク国立大学学内弁論大会、東シベリア地域弁論大会に出場する学生のスピーチ原稿の添削、音源作成、スピーチチェック、スピーチ指導。

② 極東・東シベリア弁論大会（ハバロフスク開催）

大会参加の学生2名の引率、および質問員を担当。

③ 東シベリア地域弁論大会およびカラオケ大会、教師セミナー（イルクーツク開催）

審査員として参加、大会運営の手伝い（審査員・質問員担当の日本人教師との連絡、アテンド）、教師セミナーでの発表（テーマ「日本文学史の授業における取り組み」）、学生のスピーチ指導

④ 赴任大学での「日本文化教室」の開催

今年度の開催は不定期だったが、書道、いろはかるた、日本の手遊び紹介などのクラスを行った。来年度は定期的に行うことができるよう努めたい。

⑤ 公開講座

オープンキャンパスでの体験授業のほか、イルクーツク市にある図書館や美術館などで公開講座（不定期）を実施した。依頼は主に各機関から受ける形で実施した。

3-3.反省点と今後の展望

今年度、日々の授業や日本関連のイベントを行う上で感じたことは「コミュニケーションの大切さ」である。赴任校は日本関連のイベントが開催されることも多く、報告者が依頼される仕事も多い。しかし、一度情報を確認しても変更になることが多々あった。同僚教師たちと積極的にコミュニケーションを取るよう心がけてはいたが、それでもなお情報を取り逃すことがあった。コミュニケーションについては、来年度も活動を行う上での引き続きの課題である。

また、今年度は自分なりに精一杯の活動を行ってきたつもりではあるが「日本文化教室」の定期開催に至ることができなかった。報告者は二年生以上の授業を担当しているが、一年生の授業を担当していないため、この日本文化教室のみが一年生と関わることのできる唯一の時間である。来年度は、授業を担当していない一年生との交流も大切に、日本文化教室の定期開催を行っていけるようにしたい。

4. その他の業務

12月にあった日本語能力試験で試験監督を担当した。また、「イルクーツク国立大学 日本語コース」のインスタグラムアカウントを運営し、大学での文化クラスの様子や日本語関係のイベントの様子を発信している。

URL: (<https://www.instagram.com/irkutsknihongo>)

5. 青年交流

① シュコーラにおける日本文化紹介、授業見学

イルクーツク市にあるシュコーラを日本人留学生2名と一緒に訪問し、「折り紙」のクラスを行った。また、JF日本語専門家の下郡先生、国際文化フォーラムの長江さんと一緒に学校訪問をし、授業を見学させていただいた。

② 日本文化講座（ウルスチオルダ）に参加

前々任者の榎本さんにお誘いしていただき、日本文化講座に参加してきた。講座では主に、子供たちの質問（日本や日本文化について）に答えた。

③ 日本文化祭（アンガルスク市）に参加

石川県小松市と姉妹都市であるアンガルスク市で行われた日本文化祭で浴衣の着付けを担当した。

④ レストラン「京都」の誕生記念パーティー、日本イベントのお手伝い

生け花、浴衣の着付け、書道などを行った。

⑤ 京都外国語大学とイルクーツク国立大学の協定校締結

来年4月にロシア語学科ができる京都外国語大学と協定校を締結した。（2019年5月に締結済み）前任者の伊藤教師より、赴任先大学には交換留学ができる日本の大学が少ないと聞いていたことから、京都外国語大学には赴任前から話を持ち掛けていた。

6. 任地の生活事情

電気：アパート全体で1時間程度の停電が一度起こっただけだった。インターネットも安定している。

水・温水：供給は安定している。暖房が止まる4月には断水が3日間あったが、事前にお知らせがあり、9時～17時までなどと時間も決まっていたため、仕事から戻るころには普段通り使用できていた。また、6月には2日間ほどの断水、一週間ほどお湯が止まったことがあった。

衣類：基本的には現地で何でも手に入る。市内にいくつも大きなショッピングモールがあるため、衣類の調達にはとくに困らなかった。

食事：スーパーで売っているものは腐っている場合があるため、必ず作られた日付を確認する必要がある。また、秋冬は売られている野菜の質がかなり下がるが、価格は高騰する。一年を通してサプリメントを摂取し、青汁を飲むようにしていた。市内には、日本食、中華、韓国料理などのお店があり、時々利用していた。

住居：アパートは快適で、とくに問題はない。

交通の便：バスやマルシュルートカが 20 ルーブルで利用できる、本数もかなり多い。しかし、朝夕時には交通渋滞が起こる。料金は夜 20 時以降になると値上がりし、25 ルーブルになる。また、トランバイやトロリーバスなどの交通機関があり、これらの料金は一律 15 ルーブルである。

物価：かなり安い。外食も、お店によるが 300 ルーブル程でお腹いっぱいになる。

治安状況：今年度、外出時に危険を感じたことは特になかった。しかし、日本人、ロシア人問わずスリの被害に遭ったり、日本人留学生が不審者に声をかけられたりしたということを知ったことがあったため、十分注意は必要である。また、冬場は道路や公園で飲酒をしている人が多くなるため、近づかないようにしていた。冬場は暗くなるのが早い、外出時に暗くなってから帰宅する場合はタクシーで移動していた。タクシーは個人タクシーではなく、ヤンデックスやマキシムなどのアプリで手配した。

7. 終わりに

あっという間に過ぎた 10 か月だった。慣れないこと、わからないことが多く、周囲の人に助けられることばかりだったように思う。サポートしてくださったハバロフスク総領事館、日露青年交流センターの皆様、日常のたわいもない話を聞いてくれた派遣仲間、困ったときに手を差し伸べてくれ、協力してくれた心優しいロシア人の同僚や学生たち、「困っていることはない？」と気にかけてくれた国際部の方、「何かあったらいつでも言ってください！」と心強く、あたたかい言葉で励まし続けてくれたイルクーツクで生活する数少ない日本人の方々、日本からあたたかく見守り、応援し続けてくれた家族や友人、本当に多くの方のおかげで今年度の任期を全うすることができたように思う。

来年度は、今年度一人でできなかったことをもう少し自立してできるように、ま

た、日本語の授業や日本関連のイベントで今年度に得た課題を少しでも改善できるように、日々の活動に取り組んでいきたい。また、継続二年目も人との縁や繋がりを大切に、イルクーツクで自分にできることは何かを考え活動していきたい。